



明けましておめでとうございます。 代表理事 石田 嵩



皆様におかれましては、おだやかな新春をお迎えの事とお慶び申し上げます。  
平成15年12月設立以来、会員をはじめ多くの方々のご支援ご協力をいただき、お陰さまで狭山市の環境保全に大きな成果をあげ、早や5年を経過いたしました。

特に、昨年11月には緑のトラスト9号地として「堀兼・上赤坂の森」が指定されオープンしたことは、会員、市民が全力で取組んだ成果であり「願えば叶う証」と喜びにたえません。

経済、社会状況厳しい中ですが、今年も緑・川・ゴミ減量・温暖化対策の4部会が「住み良いさやま・美しい地球」の保全と創造をめざし、様々な活動を展開します。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 「さやま環境ウォーク2008」を開催

平成20年11月24日(月)「さやま環境ウォーク2008」(全行程約6km)を実施しました。「入曽・水野新田の面影を追って、ふるさと緑の景観地を歩く」と題して、今年で4回目となりました。入間地区の自然・里山・史跡めぐりで汗をかき、語り、交友を深め、狭山の環境を共に考えていただく事が目的でした。

などを見ながら進みました。晴れた日は、そこから富士山が見えますが、当日は残念ながら曇り空でした。

平成21年3月には満杯となる最終処分場を見学し、逃水・南入間野ふるさとの緑の景観地の途中にある「やまおやじの森」で、森起こしについての大変ユニークな話を聞くことができました。

遠くから参加した人達や、近隣に住まわれている人からも「このコースは初めてだ!」「入曽・水野の自然、里山のコースは良かった」などの感想がありました。

当日は雨が心配でしたが、事故もなく無事終了することができました。全体としては好印象の感想が多く、ますますの成果をあげられたのではないかと考えております。これはひとえに、事前準備に携わっていただいたスタッフの皆さんのお陰です。

今回の環境ウォークに対し、強力な助成を頂いた狭山市観光協会、後援下さった狭山市ならびに狭山市教育委員会、及び協賛して頂いた地域の方々、多くの団体の皆様に、心より感謝申し上げます。有難うございました。(環境ウォーク事務局 中川家)

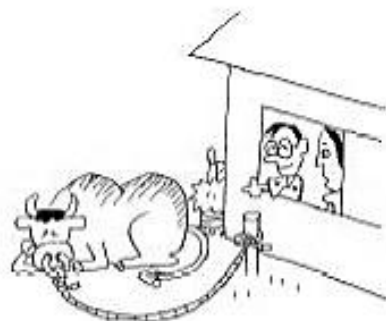


お茶畑の間を爽快にウォーキング

当日は、晩秋というより、1月半ばの初冬のような大変寒さを感じる1日でした。166名(うち子供27名)が参加し、歴史ある入間小学校より、入曽の金剛院を経てコカフ、ジグザグ道、新田開拓の面影が残る農道風景

### 環境くん

石田川しげひさ



我が家のペット、飽きたら食べちゃうのだ



# 各分科会活動報告

## 緑の分科会

## 残したい緑の風景

現在、狭山市駅西口は再開発が急ピッチで進められ、日々その風景の変貌振りには、目を見張るものさえあります。新しい街づくりの期待に心はずむ思いもありますが、ショベルカーなどが一瞬にして、古い建物を崩していく様には、失われていくものへの寂しさも感じるものです。

ところで、もしあなたが「狭山のどんな風景が好きですか」と問われたら、なんと答えるでしょうか。日ごろ忙しく暮らしていると、意外に自分の街を知らないと思いませんか。

狭山には、今でも武蔵野の面影を色濃く残し、幾世代もかけて継承された風景と、自然の高低差が作り出した美しい風景があります。そして、少し足をのばすと、いくつもの里山や、入間川の流れを楽しむことができます。



水野に残る武蔵野の雑木林

赤坂の森や煙兼・水野・奥富の田園風景、入間川の川霧や落日、水富・根堀の路地、鎌倉街道の名残など、ほんの一部です。

さあ、車を降りて「素敵な風景」を探してみませんか。四季の移ろいに癒され、歴史や昔話に思いを馳せ、子どもたちに残したいと思う、き

つとステキな発見があるはずですよ。そして、近代的な街並みと隣接する里山が、どう融合していったらよいものか、未来の狭山の姿が自然と見えてくるような気がします。(仲村みどり)



入間川の水辺の風景



町並みに調和した根堀

## 川分科会

## 「入間川まちなかエコツーリズム」に参加して

自然との共生を目指して、エコツーリズム、グリーンエコ運動が地球規模で拡がりを見せている。狭山でも入間川地区センター事業として、「入間川まちなかエコツーリズム」が、9月28日(日)に開催された。私は川分科会から実行委員として参加した。

今回のテーマは「鮎漁体験、川の生態系・生活の勉強、森のローソク点灯」を通して、入間川に親しんでもらうという企画だった。天候の関係で2度延期した影響か、参加者が約80名と少なかった。

中央公民館でのセレモニーの後、会場の新富士見橋下に向かった。期待の鮎漁は、川の水位が増した関係で、大漁の筈の鮎に網から逃げられ、獲れたのはたったの1匹。ブラックバスが5匹駆除できたのが収穫?

続いて入間川に関わる植物、鳥、生活の3つのグループに分かれ、それぞれの講師から、オニグルミや、バードウォッチング、焚き火を囲んでの川遊びの昔話などを聞いた。昼は、レクリエーション協会手作りの焼きソバを河原で食べた。鮎は不漁だったが、漁協の方が事前に手配したものが塩焼きとして参加者に振舞われ、大喜び。夕方からは森のローソク、朝から準備した丸太に炭で火をつけ、たいまつとして入間川の川べりを浮かび上がらせた。子供達がうちわで扇ぎ、炎を燃え上がらせて楽しんでいたのが印象的だった。(阿部国男)



バードウォッチングで入間川に親しむ



## 温暖化対策分科会

## 休耕田を利用したバイオマス

バイオマスエネルギー（以下ここではバイオマスと略す）とは動物、植物から得られるエネルギーの総称を言う（広い意味では石炭、石油等もバイオマスに属するが、生成に長時間かかるので除外される）。

具体的な例を挙げると、動物では家畜排泄物からのメタンガスなど、植物では菜種油や廃材等がある。近年、環境汚染を起こさないクリーンな石油代替燃料として期待され、一部利用されている。



ただ、このような自然エネルギーは石油に比べるとエネルギー密度が低く、生産するのに大きな面積が必要なのが欠点である。

10月21日、埼玉会館で開催されたバイオ燃料セミナーに出席した。講演は4題あったが、イネを原料としたバイオエタノールに関する講演が興味深かった。

食糧になるものをエネルギーとして使うには食糧危機の観点から非難が上がりやすいが、イネについては減反政策で遊んでいる田畑に食糧と競合しない飼料用イネを植えるもので、17年度からJA全農が新潟県で実施している。



実証目標は、無水エタノール製造：1,000kl/年、イネ生産量：反収800kg、バイオエタノール混合ガソリンの販売量：3.3万kl/年であり、その他、発酵残さの飼料あるいは肥料としての活用、粕穀の熱源利用などが掲げられている。平成19年度では耕地面積3,753aで平均反収は冷夏等の理由により602kgと低かった。コスト算出には至っていないが、未だ高価のようである。しかし、休耕田利用等の農政等に絡めて成果が期待されている。（塚原茂司）

## ごみ減量分科会

## 「ごみ減量先進地研修見学会」報告

平成20年10月24日(金)、町田市リサイクル文化センターおよび、唐木田焼却センターの見学を行った。町田市リサイクル文化センター

町田市では、市の方針として「燃やさない」「埋め立てない」「増やさない」「ごみゼロ社会の確立」を目指している。



リサイクルショップ内の様子

ごみゼロ社会とは限りなくごみゼロに近づける、という意味とのこと

だった。その中で、市と市民とが協働してごみゼロに向けての活動をしており、ごみの有料化はきめ細かい

対応を行い、減量は勿論、分別不完全のものが殆どなくなったとのこと。また、生ごみリサイクルでは市が設備費用を全額持つが、市民はその設備を使って実験をし、その実績を市に報告する、という試みを続けている。

その他に、「リサイクル広場」があり、各種の不用品、例えば洗剤用計量スプーン、コルク栓、パンの留め具など細かく分類すれば再利用として引き取るメーカーがある、とのことだった。

唐木田焼却センター

唐木田焼却センターの隣にはリサイクルプラザがある。そこはNPO法人により運営されており、一般的なリサイクルセンターで行われているもののほかに、陶器のリサイクルがあった。割れた陶器を集めてリサイクルしているが「日本では陶土が不足しており、20%は輸入している」ということを初めて知った。

（土淵 昭）

## スタッフ募集

**第一環境センターリサイクルプラザ、1月5日よりOPEN**  
リサイクルプラザ市民啓発業務に携わるスタッフ・ボランティアを募集しています！

- 業務時間：午前9：00～午後4：30
- 時給：¥700
- 場所：狭山市上奥富899 第一環境センターリサイクルプラザ
- 業務：リサイクルに関する案内、準備など
- 募集人数：若干名
- お問合せ先：NPO さやま環境市民ネットワーク事務局長 伊藤勝彦 Tel/Fax 04-2956-6357



## ★緑のトラスト保全第9号地 堀兼・上赤坂の森にオープン★

狭山市みどり公園課長  
榎戸克樹

まずは、トラスト保全第9号地「堀兼・上赤坂の森」が、さやま環境市民ネットワークの皆様をはじめ、多くの方々のご参画の下、無事オープニングセレモニーを開催できました事に心より御礼申し上げます。



開会式の様子

今、このイベントを経て、主に以下の二つの成果が得られたものと思います。

一点目は、トラスト保全連絡会議で提案されたクリーン作戦とのコラボレーションにより、約4tにもおよぶ不法投棄ゴミが収集されましたが、貴重な里山景観を汚す者への憤りを覚えたものです。しかし、それにもまして、善意溢れる多くの市民の力によって、県下に誇れる美しいトラスト保全地として、オープニングを迎えられた事が何よりの喜びであることです。

二点目は、えてして異なるスタンスを有する地権者団体と環境団体、或いは企業や行政が連絡会議の場を介して互いに尊重し合い、「みどりの保全」という大きな目標に向かって一丸となって取り組んでこられた「プロセス」と、実り多き盛大なセレモニーを開催できた「結果」は、とりわけ特筆しておかなければなりません。



4コースに分かれてのゲートン活動

今後、このオープニングセレモニーを契機として、自然環境と共生する狭山市の街づくりを、なお一層進めるため、ご協力を賜りますようお願い申し上げます、お礼とご報告に代えさせていただきます。

はなりません。こうしたボランティア活動を基軸とした協働体制の確立は、何よりも肝要な成果であり、今後、持続的な発展を遂げていくことを切に願っています。

また結びに、貴重な紙面をお借りして、先達の思い入れを含めて感想を述べさせていただきます。思い返すと2005年、さや環と市の総力を挙げて臨んだの県民投票にも拘らず、惜しくも北本市に敗れ、挫折感を味わった時期もありました。しかし、皆の熱き思いが市を元気付け、県やトラスト協会を動かし、今回のオープニングに至った事で、ようやく雪辱を果たすことができました。さや環の皆様と共に、猛暑の祭りの最中に、一人ひとり声をかけて署名を集めたあの日々が、今となっては良き思い出となっていると聞きおよんでおります。



参加者500名以上に芋煮汁を提供



2005年の投票推進活動のひとつ

「エコシルフィで快適空間」

### 株式会社ユースのエコオフィスを見学して

地球温暖化が進む中、「省エネ」はキーワードです。

市内新狭山の糺ユースでは、様々な省エネ商品を取り扱っているようです。そんな中、寒くなる季節に「エコシルフィ」は、有効なエコアイテムだと思いました。

“暖房を効かせ過ぎて、上半身は汗をかくほど暑いのに、足元は寒くて困る”との話をよく聞きます。エアコンだけの場合、室内の上下の温度差は5度～10度位あります。

「エコシルフィ」は、天井にたまった暖気を循環させて、部屋全体の温度ムラを解消。上半身は快適温度で足元も暖かくなります。これによりエアコンの設定温度も下がり、電気料もCO<sub>2</sub>も下げられます。ユース事務所は「エコオフィス」のモデルルームになっており、いつでも見学を受け入れるそうです。

(中川泉)





「英語でも楽しめる『さやま子ども環境カルタ』」  
ぜひ活用下さい!!

平成18年秋頃「狭山の自然や環境の特徴を織込んだ環境カルタを作ろう」との声があがり、2年余りかけて企画・製作に取り組み、昨年9月にようやく「さやま子ども環境カルタ」が完成しました。初版は1000セットを印刷し、その内150部余を読み札の入選者や、製作にご協賛いただいた事業者・団体・個人の方々等に贈呈しました。

あわせて、「NPOさや環設立1周年記念のつどい」、「埼玉県緑のトラスト保全9号地オープニングセレモニー」、「環境ウォーク2008」で展示・販売しました。地域の一般の方々にも「直接に現物を見て、触って、確かめて」購入して頂きたいと、まちなかのギャラリーや、たまり場などを活用し、展



まちなかのギャラリーで展示会

示・販売促進に取り組んできました。その取り組みの一端は、狭山ケーブルテレビや、読売新聞（ほっとタウン欄）でも取り上げられました。また、公民館など公共施設でのポスターの掲示を介して、PR活動も展開してきました。購入して頂いた方からは「さやま子ども環境カルタのことを知りました。お正月に孫達

(小学生)とカルタとりをしたくて購入しました」、「狭山の特徴の入ったおらが街の郷土カルタです。田舎の甥達の正月の友にすべく3部送り



若葉台子どもふれあい大会でカルタ活用

ました」などの声が寄せられています。

このように精力的に“さやま子ども環境カルタ”の展示・販売に努めてきましたが、まだ余部が相当あります。ぜひ、お子さんやお孫さんにお求めいただけたら幸いです。

NPO さや環では新音に「環境カルタ大会」の開催を企画していますが、会員のみなさんにも地域の公民館、幼稚園、子供会などに活用していただけるように働きかけて下さい。よろしくお願い申し上げます。

(環境カルタ実行委員 小川 繁)



「さやま子ども環境カルタ」は市役所1階の福祉の店「アミー」にて1セット1500円で販売中

声

★ 環境に目覚めて一年

個人的ですが、気がついたことを述べてみたい。それは「自販機1台が家庭の1世帯分、コンビニは家庭の50世帯分の電気の消費量」と諸悪の根源のように言うのは如何なものか。例えば、自販機が有ることによって水分補給・防犯灯代わりにと役に立っているはずで、またコンビニについてもしかりである。

温暖化防止以外には目もくれないではまずい。本県のスローガンである「安心・安全なまちづくり」が重要で、物事はトータルで考え、判断し、呼びかけるべきではないか。自販機やコンビニには遮音壁を兼ねたソーラーパネルの設置要望等のヒントを与え、企業努力して頂くのは如何でしょうか。人は生活水準や便利さは、後戻りできないのです。

日照時間が全国一とされている埼玉県、地の利を生かした「安心・安全なまちづくり」に向かって知恵を絞り、情報や意見を交換し、しかるべきセクションに呼びかけられるNPOの一員になりたい。と思える人間に少し成長しました。

(佐々木英雄)